

2. 講演

【講演-1】古くて新しい α ゲル製剤

千葉科学大学薬学部 准教授 山下 裕司 氏

【講演要旨】

「 α ゲル」はその名称を含め、理論が十分に確立されたとは言い難い構造体である。ミセルや液晶と同様に、ある条件下において溶液中で自発形成する自己組織体の1つと考えられるが、平衡系の液晶とは異なり、 α ゲルは非平衡状態と捉えられている。この非平衡状態である点についても未だ結論に至っておらず、従来の結晶学の考え方や界面活性剤の充填モデルなど、適用可能な理論が曖昧になっている。その一方で、 α ゲルは古くからヘアケア製品をはじめ様々な処方に利用されてきた。いわゆる増粘剤と認知されている高級アルコールを処方に加えることで界面活性剤と協働し、 α ゲルを形成しているケースが多いように思われる。このように、 α ゲルを作ること自体は然程難しいものではなく、近年では多様な界面活性剤で α ゲルが形成できることが報告されている。

本講演では、“ α ゲルの何が分かっている、何が分からないのか”を整理し、 α ゲルの基本構造と物性、調製法、評価法、および最近の研究動向について紹介する。

【講師略歴】

- 2005年 バイロイト大学博士課程修了
- 2005年 JNC 株式会社 研究第一センター
- 2009年 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター ポストドクター
- 2011年 千葉科学大学薬学部 助教
- 2014年 千葉科学大学薬学部 講師
- 2018年 千葉科学大学薬学部 准教授(現職)

【講演-2】ヨーロッパ発グローバル企業のサステイナブルの考え方

日本ロレアル(株) リサーチ&イノベーションセンター 原料部 部長 三木 崇絵 氏

【講演要旨】

地球を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。地球温暖化や人間の活動による環境変化は前例がないほど規模の大きいものとなり、また、貧困などの社会問題もより深刻になってきました。より強い取り組みが求められています。ロレアルは2013年にサステナビリティプログラム“SHARING BEAUTY WITH ALL”を立ち上げ、環境的・社会的課題にイノベーション、生産、生活、発展の面から取り組んできました。本講演では現在までの達成状況を説明するとともに、2030年に向けて本年立ち上げた新たなサステナビリティへの取り組み“L' OREAL FOR THE FUTURE”をご紹介します。

【講師略歴】

- 2001年 Fairleigh Dickinson University Master of Art (in Science)
Cosmetic Science Concentration 卒業
- 2013年 筑波大学 MBA-IB(International Business)卒業
- 2014年 日本ロレアル株式会社 R&I 原料部 入社